

セミパラレルワイヤケーブル SPWC®（高耐食型）が （一財）日本海事協会の設計承認（APPROVAL of Product Design）を取得

当社は、2025年2月20日に一般財団法人日本海事協会殿よりセミパラレルワイヤケーブル SPWC®※1（以下、SPWC）の高耐食型（以下、高耐食型 SPWC）について浮体式洋上風力発電設備の浮体構造物用係留索として設計承認（APPROVAL of Product Design）を取得し、同年3月10日に同会・本部（東京都内）において手交式が執り行われました。この設計承認は、技術開発やガイドライン整備が進行中である浮体式洋上風力発電設備向け艀装品のために設けられた段階的な承認システムの一環であり、本製品の設計仕様が浮体式洋上風力発電設備の浮体構造物用係留索に対して、その設計成立性が認められたことを証明するものです。当該承認に加えて、今後、製造法承認を取得することで本製品を適用するサイト条件での評価に向けた準備が整います。なお、本承認が当該システムにおける設計承認第1号案件となります。

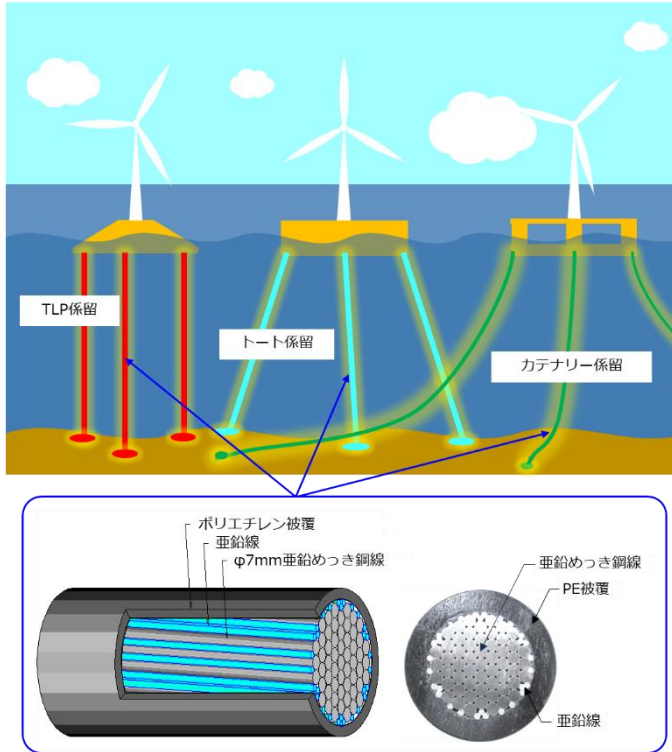
（2025年3月10日手交式の様子）



本承認を取得したことで、当社の高耐食型 SPWC を洋上風力発電設備の浮体構造物の係留索として設計することができ、鋼製チェーンや繊維ロープとは異なる物性を有した係留索の選択肢が増えることとなります。また、本設計承認は係留方式も限定していないため様々な係留方式への使用検討も行えます。今回の新たな係留索の選択肢の提供により、洋上風力産業の新たな技術開発をサポートしていきます。今後、本製品については製造法承認の取得に向けた活動を開始し、少しでも早く皆さまに提供できるよう整備を進めてまいります。

当社は、ミッションである“社会が前に進むために、「なくてはならない価値」を提供し続ける”を実現するために、サステナビリティ経営を中心に据えた経営戦略を推進しております。当承認の取得は、当社のマテリアリティ（=今取り組むべき重要テーマ）の一つである「カーボンニュートラルへの挑戦」への取り組みのひとつであり、引き続き、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

(SPWC®を用いた係留イメージ)



※1：セミパラレルワイヤケーブル SPWC®

φ7mm の亜鉛めっき鋼線を束ねてポリエチレンで被覆したケーブルで、高疲労強度と優れた防食性能を有しています。ヨーロッパ、アメリカおよび日本での数々の実験により実証され、世界的な斜張橋や吊橋をはじめとし、ニールセン橋、アーチ橋、大型建築物等の構造用ケーブルとして多数の実績を上げています。

高耐食型 SPWC は、亜鉛めっき鋼線束の外周に流電陽極として機能する亜鉛線を装備させることで、供用期間中の不測の事態により被覆材（ポリエチレン）に損傷が生じて海水が浸入し、鋼線束が海水に晒されても亜鉛線による電気防食作用により鋼線を腐食から防御する機能を有しています。浮漁礁や GPS 波浪計の一本係留ケーブルとして数多くの実績があり、実際に 10 年以上海中で供用したケーブルの回収調査においても異常は認められておらず、優れた耐食性を有することを確認しています。

■お問い合わせ先

神鋼鋼線工業株式会社 総務室（担当：松江）

TEL：06-6411-1051 <https://www.shinko-wire.co.jp/contact.html>